★メイン情報★

「訪問!点呼の現場」 ~健康起因事故防止について~

健康起因事故防止ついて「他の組織はどの様な取り組みをしているのか?」と情報が欲しい時もあるかと思います。そこで、今回は実際の点呼現場を取材し、健康起因事故防止の取り組みについてご紹介していきます。



今回は京王電鉄バス株式会社様に取材協力していただき、 府中営業所を訪問してきたんだ!

Company Data

京王電鉄バス株式会社

東海電子株式会社



X



Personnel Data 安全技術部 安全推進・サービス向上担当者様 製品統括部 サポートグループ ZEROの助太刀担当者



京王電鉄バス株式会社 本社 京王バス株式会社 府中営業所 取材のきっかけはZEROの助太刀の中の人が動作テストでお伺いした際に、健康管理の一環として血圧計を導入している現場を見て、健康管理についての取り組みを企業の枠を超えて情報共有できたら有益なのではと感じたことからでした。

思い切って取材依頼をしてみたところ、こころよく取材を引き受けてくださいました。



次のページから健康起因事故防止の取り組みについて 聞いてきたことを紹介していくよ

1.血圧計導入の経緯について

血圧計を導入したきっかけはありますか?

私たち事業者は乗務を開始する運転者に点呼をおこない、酒気帯びの有無はもちろん、疾病、疲労、睡眠不足など、いわゆる健康状態に異常がないかを確認しなければなりません。でも、運転者の挙動や顔色は確認する側の主観に左右されてしまうことも考えられます。 血圧計は運転者が乗務に資する健康状態にあるか運行管理者がより判断をしやすいよう把握できるツールとして導入しています。

アルコール検査と血圧測定を連動させ、システム上で結び付けて記録するようになったのは 2005年9月からのことですが、血圧計そのものはそれ以前から各営業所に備えており、健康状態を客観的に確認する指標として活用しています。

血圧計設置風景

パーテーションで静かな場所に血圧測定のスペースを確保する工夫をされている営業所もありました。

府中営業所



桜ヶ丘営業所





周囲に人が居ると緊張して血圧が高くなる人もいるみたいなんだ

2.健康起因事故防止の取り組みを浸透させることについて

健康起因事故防止の取り組みを浸透させる上で意識している点はありますか?

まずは、運行管理者ならびに乗務員には、なぜ厳格な健康管理を実施しているのかを理解してもらうことが重要と考えています。マニュアルの様にまとめて単純に伝えただけでは当事者意識を持ってもらえません。研修等では健康管理を行っている理由や、自社や他社を含めて実際に起きた事例も用いながら自分に置き換えて考えてもらうようにしています。

健康起因事故防止の取り組みを浸透させる上で苦労する点はありますか?

健康起因の事故防止の取り組みは「飽きず・諦めず」という点に苦労を感じます。生活習慣の改善・通院の促進など乗務員から見ると"面倒くさい"内容が多く、毎回同じ指導を行う者もいます。そのような中でも服薬状況の確認など、長い時間を掛けて定着したものもありますので、正に粘り強く一歩一歩取り組んでいくしかありません。

取り組みの難しさを感じるのは、点呼の際には予兆が見られなくても、乗務途中に体調が 急変してしまうケースです。少しでも体調の変化を感じたらすみやかにバスを安全な場所に 停車させるよう定期的な教育で繰り返し伝えています。

---体調の急変に対してハード面で補助することもあるのでしょうか?

近年は車両も進化しており、運転者の状態をモニターして異常を感知したら警告したり、もちろんこれは最終手段ですが、車内の旅客がボタン一つでバスを安全に停車させられるドライバー異常時対応システム(EDSS)を備えた車両が登場しており、当社でも順次導入を進めていきます。

現場の知恵コーナー

ある営業所ではIC免許証リーダーを設置する場所がないため、血圧計にIC免許証リーダーを取り付けていました。血圧測定を始める前に無理がない姿勢でIC免許証をかざせて見た目もよし! IC免許証リーダーの設置場所に困ったら試してみてはいかがでしょうか。







血圧計にIC免許証リーダーを貼り付け

ハードに合わせて新たに意識している点はありますか?

近年ニュースでも紹介されるように乗務員の平均年齢が上がってきていることに加え、働き方の多様化により定年を迎えた後もライフスタイルに合わせて働き続けたいという者も増えています。乗務員に永く安心して乗務してもらえるよう年2回の健康診断のほか、脳ドックや睡眠時無呼吸症候群(SAS)検査など、会社が従業員の健康状態を把握するとともに、乗務員自身で健康状態を自覚し、体調管理を考えてもらう機会を設けています。

3.健康起因事故防止の取り組みで変化したことについて

健康起因事故防止の取り組みをおこなって変化したのはどのような点でしょうか?

こういった取り組みは日々の積み重ねですので、ある日突然変化するものではありませんが、 乗務員が健康状態を正直に申告し、運行管理者もそれを真摯に受け止めて乗務可否の 判断をしていることは間違いありません。

私も乗務員が血圧の数値に真剣に向き合っている姿を見ると、自分も改めて健康に気をつけなければと思います。私に限らず、新しく入ってくる社員の方も前からいる社員の方も職場の健康管理に対する姿勢を感じていて、健康管理に対する意識の変化があったと思います。

---血圧測定をする環境があることで、自然と健康管理を意識するように変化したのですね

はい。社内の健康診断の数値を見て、「これは何を示している数値なのかな」とか「この数値が高いから食べ物に気を付けようかな」と思うのは、日常のなかに血圧を定量的に計るものとして血圧計があることがとても大きいと感じています。

少し話がズレてしまいますが、飲酒運転防止に加え健康管理にも関連して、点呼執行者 が酒気帯びの有無や健康状態を顔色や挙動などをより近距離で確認できるように点呼カウンターの奥行を短くしたんです。点呼場の物理的な改良ですね。

---具体的な距離はありますか?

およそ60センチです。飲酒運転防止に向けた取り組みでしたが、乗務員の顔色や状態をしっかり確認するという観点では健康管理にも関連すると思います。

このような取り組みもそうですが、一回決めたからそれでよくなることはなく、取り組み状況の確認や検証等を継続的に行い、先ほども言いましたが「飽きず・諦めず」取り組むことにより少しずつ良くなっていきます。アルコール検査と連動した血圧測定を導入してすでに16年が経ちましたが、まさに時間をかけて深化したものと感じています。

効果が大きかった取り組みはありますか?

一つの取り組みに対しての効果を正確に判定することは難しい部分もあります。効果の話とは少し違う個人的な体験となりますが、乗務員を対象とした教育で「運転中に体調の変化を感じたらまず安全な場所にバスを止めて運行管理者に指示を仰ぎましょう」という内容の教材がありました。その教材では、さっきまで普通に運転をしていた人が、受け答えが不明瞭になり刻々と体調が悪化していく様子が記録されており、ショッキングに感じたので今でもとても記憶に残っています。改めて、一過性の取り組みではなく日々の健康管理の積み重ねが大切だと感じました。



一つの取り組みで大きな効果を期待するより 色々な取り組みを積み重ねていくことが大切なんだね

4.健康起因事故防止の取り組みの今後について

─ 今後、乗務員の方の年齢層の変化と健康管理についてどの様に考えていますか?

先ほど、健康診断をはじめ各種検査により、年を重ねても安心して働ける環境を整えていることをお話ししましたが、加齢にともなう身体機能の衰えを自覚してもらうこと重要さは必ず伝えています。定年後も働きつづけたい乗務員には、定年を迎える前に研修を実施していますが、当社の産業医に臓器の模型を用いるなどして丁寧に説明をしていただいています。専門家から病気が進行した様々な症例を生々しくお話しいただくので説得力があります。



府中営業所車庫風景、いろいろなデザインの車両がありました。

5.現場の活動に関連したことについて

乗務員の状態に気づくために、コミュニケーション等で注意している点はありますか?

乗務員一人一人の性格を把握・理解することが大切で、声をかけるタイミングは重要です。 乗務員は、出勤時や運行開始前には緊張を高めているので、その場にあった声かけをして、 気持ちよく運転業務につけることが大切です。

乗務員には定期的に声かけを行なうことも重要です。お客様からご意見を頂戴した乗務員と面談し、最近の過ごし方からはじまり、悩みごとを聞きたりすることによって、乗務員の表情が良くなり、それ以降、ご意見を頂戴することがなくなったこともあります。

乗務員は、「元気か」「気を付けてね」とかの声かけがあれば、自分のことを気にかけてくれていると安心し、気が引き締まり、安全運行で車庫に戻ってこようと思うようです。

---日常的に関心を向けているのが大事になるのですね

多くの乗務員が働いているので、家族構成や生活スタイル、性格・態度、趣味などそれぞれです。時には、乗務員の表情が硬かったり、出勤時にイライラしているのを見かけることもあります。その時には、「家で何かあったの?」「家族とケンカしちゃったの?」なども聞き、心を落ち着かせることもあります。

細やかな心配りを続けると、仲間としての信頼感が増し、プライベートのことまで相談されることもあります。真剣に一人ひとりの乗務員と向かい合うことで、運行管理者に対する信頼感が生まれます。

様々な取り組みを講じている中で事故になりそうな事例を回避できたことはありますか?

ある特定の取り組みが事故を防いだということではなく、日々の取り組みが実を結び事故防止につながっているというのが本音です。私たちも乗務員の少しの基本動作逸脱を見逃さず、細やかに確認・助言を行っております。

独身者に栄養管理の面でアドバイス等されていますか?

乗務員は、食生活が不規則になりがちで、朝早くや夜遅くに食事をとることもあります。そのため、高血圧や肥満につながりやすく、結果、要健康管理者となった乗務員に対しては、食事改善や定期的な運動を促すように助言をすることが多くなります。営業所には食堂を設置し、定食メニューを設けるなどバランスのよい食事を促しています。遠方まで運行する高速バスの乗務員には、食事の中に野菜を取り入れてもらえるように、サラダを購入した乗務員には「サラダ手当」として食費の一部を補助しております。

---血圧測定の仕組みがある事で、健康に意識を向ける環境はありますね

血圧管理が毎日の光景になっておりますので、そういった姿をみて、乗務員同士が意識を 高める一助となっていると感じています。

★プチ情報★

■センサーユニットにもマスクを、センサーマスク販売中!

● 東海電子製センサーユニット (ALC-HU-200) をご利用のお客様へ。ECサイトにてセンサーマスク (センサーユニット呼気カバー) の販売しております。



 【EC限定】センサーマスク(2個/袋) | 【運輸安全

 SHOP】アルコール測定器の東海電子公式ネットショップ!

 消耗品のご注文はこちらから! (tokai-denshi.co.jp)

●実際の設置状況

京王電鉄バス株式会社様の設置風景





●設置方法と効果

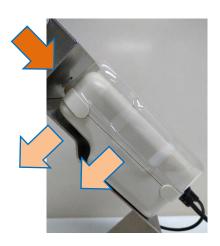


設置は簡単、被せるだけ!

「呼気の流れのイメージ」 排出される呼気を下方に向け 落とします。







東海電子株式会社 メルマガ事務局 東京都立川市曙町2-34-13 オリンピック第3ビル 203号室 TEL 0120-609-0100 / FAX 042-526-0906

http://www.tokai-denshi.co.jp/
